

令和元年度（平成 31 年度）静岡デザイン専門学校 学校自己評価・学校関係者評価 評価報告書

1. 教育理念・教育目標

〈 教育理念 〉

社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

〈 教育目標 〉

教育基本法に則り、学校教育法に従い、服飾並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

〈 目標・計画 〉 ※令和元年度（平成 31 年度）実績報告書参照

— 特色ある教育を実践し、高校生や企業から選ばれる学校づくりを目指す —

1. 「目標定員確保の必達に向けた募集活動を実践する。」
2. 「実践的で個性豊かな教育の展開により、競合校との差別化を図る。」
3. 「社会環境の変化に即した就職指導体制に改善し、専門職内定率を高める。」
4. 「第3次中期計画に沿って各地区事業を着実に実行し、5年後の「一体的な運営」のビジョンを検討する。」

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価方法： 4（適切） → 3（ほぼ適切） → 2（やや不適切） → 1（不適切）

（1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は示されているか	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		4
<u>成果と課題</u>		
<p>・教育理念並びに教育目標は入学時に配布される学生便覧（2019年度は学生のしおり）に記載されており、入学時のオリエンテーションで入学生全員に周知している。また、学校行事の際に口頭でも伝達し、さらに教室には教育理念をスローガン化した『専門技術・知識+社会人基礎力=社会を生き抜く力』についての掲示を行い学生・教職員の目に触れる環境となっており、必要な時に想起することができる。</p>		
<u>今後の改善方策</u>		
<p>・この状況を維持するとともに、さらに徹底を図る必要がある。</p>		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<p>・社会人基礎力など、オンライン授業が増えたことで弱くなる生徒、強くなる生徒に分かれると思うので見極めて指導していくことが必要だと感じた。</p>		

<ul style="list-style-type: none"> ・学生のニーズによる様々な科があり目標が定めやすいと思える。 ・専門スキルとともに社会人としてのマナー、対人折衝能力の向上にもより力を入れていただきたい。(過去の学生との接触を通して感じた点。) ・何をするために入学したのか、修業期間で何を身につけたいのかを自覚してもらう為に、繰り返し理念に沿った指導がされていると感じる。 ・目の前に見えるカタチで掲出されているので学生たちは意識しやすくなっているのではないかと。但し文言は概念的なため学生たちはどの程度理解しているか。 ・教育理念、教育目標についてはあらゆるツールが用いられ、学生の目に触れるよう努力が見受けられる。その結果、一年間の学生の活躍として表れていると思われる。

学校関係者評価平均

4

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

・文部科学省が推進する職業実践専門課程に全学科が認定されており、それに伴う教育課程編成委員会を年2回開催している。この委員会で企業委員からの有益な意見をカリキュラムに反映し、シラバスを改訂した。学生にはHP上で公開している。

▼コンテスト入賞実績

【学生入賞】

- ・静岡県 県知事褒賞 2名受賞：本校学生 7年連続受賞 【静岡県】
- ・第12回全日本ヘアメイク選手権 学生シュウウエムラ部門
【JMA(全日本メイクアップ検定協会)】 グランプリ (全国1位) 2年連続

- ・【子ども虐待防オレンジリボン運動】「公式ポスターコンテスト 2019」一般部門最優秀賞を受賞
- ・【公益財団法人パル井上財団】ロールプレイングコンテスト「PAL FOUNDATION CUP」ブロンズ賞
- ・第 56 回技能五輪全国大会【厚生労働省・中央職業能力開発協会】
県代表選抜出場 洋裁部門 2 名、フラワー部門 2 名
- ・第 16 回 AC ジャパン広告学生賞【AC ジャパン】
新聞広告部門 優秀賞 1 名
テレビ CM 部門 優秀奨励賞 1 名 計 2 名入賞
- ・第 14 回全国若年者ものづくり競技大会【中央職業能力開発協会】
グラフィックデザイン部門 全国 2 位 銀賞
- ・アビリンピック DTP 部門の県予選全体で 2 位
- ・静岡新聞広告賞 2019 公募部門【静岡新聞社】
グランプリ 1 名、準グランプリ 1 名、審査員特別賞 1 名 合計 3 名入賞
- ・第 8 回静岡県ものづくり競技大会【静岡県職業能力開発協会】
グラフィックデザイン部門 第 1 位
- ・第 18 回 SOHO 静岡ビジネスプランコンテスト【SOHO 静岡・B-nest 静岡市産学交流センター】
学生部門 静岡新聞社賞 1 グループ受賞
- ・花の都しずおかフラワーコンテスト 2020【静岡県ふじのくに花の都しずおか推進協議会】
ミニガーデン部門 銅賞、静岡新聞社賞
アレンジメント部門 銅賞
- ・第 13 回静岡県メディア・ユニバーサルデザインコンペティション
【静岡県印刷工業組合】 特別賞 2 名
- ・第 13 回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション（全国）
【全日本印刷工業組合連合会】
佳作 3 名（1 グループ） 受賞
- ・第 26 回富山デザインコンペティション【富山デザインウェブ】ファイナリスト
- ・ふじのくに未来デザイン 2019【静岡県経済局】優秀賞

▼企業団体との共同研究への参加実績

- ・【伝馬町発展会】第 14 回伝馬町通り商店街・活性化プロジェクト
 - ①てんまデザイナーズバナー制作・設置
 - ②てんま夏祭り 2019（浴衣ファッションショー、フラワーショーなど）
- ・【大道芸ワールドカップ in 静岡】「クラウンスタイルコンテスト」グランプリ衣装制作
- ・【呉服町名店街】大道芸キッズスペインティング運営
- ・【静岡市】「SDGs 推進」SDG s 宣言
- ・【(株)青島文化教材社】の新製品「ザ・スナップキット」の魅力を発信する映像制作
- ・【静岡県/静岡市】「SDGs 推進 TGC しずおか 2020 by TOKYO GIRLS COLLECTION」会場オブジェ装飾、
会場運営スタッフ、ダミーモデル、ボランティア参加
- ・【bud brand プロジェクト】ミラノデザインウィーク 2019 作品出品
- ・【(株)手塚プロダクション】手塚治虫キャラクターを用いた商品企画の提案
- ・【I Love しずおか協議会】「“おまちワンダーランド” クリスマスステージ」参加
- ・【静岡県家具工業組合】シズオカ[KAGU]メッセ 2019 作品ブース運営
- ・【タミヤ】クリスマスフェスタ 各種ワークショップ運営
- ・【静岡まつり実行委員会】「大御所花見行列」学生参加
- ・【SBSテレビ】『sole いいね!』の番組セットの装飾 季節ごと入替
- ・【(株)もちひこ】テント端材を利用した商品開発プロジェクトに参加

- ・【大場建設株】「強羅温泉／強羅館」リノベーションプランの提案
- ・【アイワ不動産】マンションリフォーム計画の提案
- ・【静岡市立静岡病院】「病院に再び花をプロジェクト」フラワー装飾 計3回
- ・【静岡鉄道】「デジタルサイネージ」新型車両内デジタル広告
- ・【静岡県】静岡県庁東館2階ロビー フラワー装飾 計7回
- ・【NHK静岡放送局】『ひるしず』『しずおか花便りコーナー』フラワー装飾毎週入替
- ・【島田帯シャツブランド協議会】島田市役所玄関前ディスプレイ
- ・【柁ヒューマンフォーラム】Tシャツ、スマホケース、ステッカー商品の開発・販売
- ・【丸井静岡店】ショーウィンドー及び店内ディスプレイ 夏冬計2回
- ・【新静岡セノバ】クリスマスディスプレイ展示
- ・【みらーと】障がい者モデルファッションショー ヘアメイク担当
- ・【ワテンズ】「ワテンズプロジェクト」キッズヘアメイクショー メイク担当
- ・【静岡県】「浜名湖花博15周年」フラワー装飾作品を展示
- ・【するが花卉卸売市場】「清水港フラワーフェスタ2019」フラワーショップ、フラワーショーステージ
- ・【グランシップ】「ある水筒の物語」静岡発オペラの衣装製作担当
- ・【静岡県】「ふじのくにシャツファッションショー」モデル出演、フラワー装飾担当
- ・【緑茶カフェ Leaf Paradise】「お茶をデザイン展」のポスター展示
- ・【静岡トヨペット】「スキップランド」ワークショップ、フラワーモニュメント製作
- ・【養護老人ホーム高麓】介護服のデザイン
- ・【静岡県立美術館】「ふじのくに芸術祭2019」学生アートフェスティバル出展 他

▼各種デザイン・作品の採用実績

- ・【戸田書店】ブックカバーデザイン（限定12万部配布）
- ・【大道芸ワールドカップ実行委員会】大道芸ワールドカップ in 静岡 2019 公式ポスターデザイン2種
（全国版・市内版）、リーフレットデザイン
- ・【静岡市】静岡市リバウエル井川スキー場 ポスターデザイン
- ・【子ども虐待防オレンジリボン運動】オレンジリボン啓発ポスターに採用
- ・【清水港開港120周年記念事業】ロゴデザイン採用、広告、各企業の限定商品・ノベルティグッズへの展開
- ・【静岡マルイ・モディ】開店50周年記念キャンペーン ポスターデザイン
- ・【静岡県広告業協会】新聞広告の日 全5段広告へ採用
- ・【静岡鉄道】日吉町駅マナー看板デザイン 3作品
- ・【静岡鉄道】新型車両マナーアップデジタルサイネージ制作
- ・【静岡県舞台芸術センター（SPAC）】中高生鑑賞事業パンフレット制作 4演目
- ・【静岡市国際交流協会（SAME）】異文化コミュニケーション体験フェア ポスター 他

今後の改善方策

・教育課程編成委員会を開催するにあたり、より多くの外部意見を取り入れるためには委員の方を定期的に入れ替える必要があると考え、委員の一部更新とメンバー増員を行った。デザイン系に静岡県広告業協会理事長、映像地元TV局映像プロデューサー、ファッション系に日本ショッピングセンター協会中部支部副支部長、大手アパレルメーカー事業部部長、フラワー系に日本フラワーデザイナー協会理事をお迎えし、大変貴重なご意見を伺うことができた。

- ・上位層ややる気のある学生をフォローするため、チャレンジプログラム制度をカリキュラムに取り入れたが、学科ごと運用の仕方にばらつきがあるため、運用方法を再検討する。さらに学生にとって有益なものについては、自主的な取り組みを促したり、部活の中で取り組んだりするなど後押しを引き続き行う。
- ・学生自身が成長を自覚できるように「成長の見える化」を図る。
- ・様々な実績のアーカイブ化へ取り組み広報しやすい環境を作る。

学校関係者 評価コメント

- ・教育課程編成委員の入れ替えは大切。企業の上の人の意見も大切ですが、卒業生（先輩）が実際に何を学んでおけばよかった…と思っているか、身近な意見も取り入れて欲しいと思う。時代に合わせた改善策が必要。
- ・コロナによる影響にもリモート等の対応がされており活動も積極的であり、新しいチャレンジも感じられる。
- ・専門スキルとともに社会人としてのマナー、対人折衝能力の向上にもより力を入れていただきたい。（過去の学生との接触をとおして感じた点です。）
- ・各学科とも色々なイベントやコンテスト、社会貢献活動に参加、チャレンジされておりなおかつ優秀な成績を修めている。学校関係者のご指導のもと、生徒も意欲的に取り組んでいることがよく解る。
- ・優良なカリキュラムが組み立てられていることの結果がコンテストの入賞実績に現れている。
トップレベルは問題ないとして全体のボトムアップは必要。
- ・シラバスが広く公開されており、その計画に沿って企業や地域との共同研究が活発に行われており、多くの成果に繋がっている。
- ・数々のコンテストに受賞・入賞が御行のチャレンジ精神を物語っている。

学校関係者評価平均 3.83

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	4
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ・就職率の向上を図るため、全教職員が一丸となって指導にあたっている。本年度も前年に引き続き、履修した分野に関わる業種・業態に就職した学生の関連分野就職率は昨年より0.4ポイントUPの96.6%となった。
- ・資格取得に対しては、各学科が計画的に授業を構成し指導にあたっている。ほぼ昨年並みの取得率を確保した。
- ・退学率低減のために、個別面談を行い早期に学生が抱えている問題を解決するよう努めた。年度末の退学率は6.5%となり目標の6.5%以内に抑えることができた。前々年度は7.8%、前年度6.8%と退学率は低下している。
- ・新聞やSNS等による情報発信を注視しながら、卒業生の活動を確認している。また、本校の施設であるデザインファーム等を利用して個展などを開催する卒業生も多数あり。

今後の改善方策

- ・それぞれの業界で今後必要とされる人物像も変化している。それらを把握しカリキュラムに反映していくため、企業との接点を増やし、情報収集・カリキュラム構築に臨む。
- ・学生の就職に対する意識が多様化しており、個々の学生の特性に合わせた、よりきめ細かな就職指導を行う。

- ・インターンシップを採用選考の一環と位置付ける企業はさらに増加している。また、時期も早期化している。本校もより積極的にインターンシップを利活用し、早期内定に結びつけるとともに、教員の企業訪問による情報収集の場としての役割も強化していく。
- ・新型コロナ感染リスク拡大により、経済情勢の悪化が急激に始まり、2020年度卒業予定者の就職活動環境の先行きが見通せない状態となっている。対象学生への情報提供や学生の報告や相談に、ITCを活用するニーズが一気に高まっている。環境の激変に柔軟に対応する。

学校関係者 評価コメント

- ・インターンシップでは企業側も生徒のスキル以外に人間性やコミュニケーション力も見ることができて活用の利点が多いと思う。就職率も学校を選ぶ際に必要だが、離職率が気になるところ。2年、3年学んだことを長く続けてもらいたいと思う。
- ・専門的な職種の幹旋がなされ向上されていると思われる。
- ・退学率の低下は教育成果として高く評価できる。また退学者へのフォローも年一回程度（3年間程）あっても良いのかと思う。
- ・在籍者数、退学・休学者数も昨年とほぼおなじではあるが、少子化、社会情勢を考慮すれば指導面での努力が評価される。但し、就職に関してはコロナ禍の中で苦戦を強いられると危惧している。
- ・社会が少しずつ変化中、学生たちの就職に対する意識が多様化しているが、学校として上手に対応できていると思う。今後はますます多様化し、社会的にもコロナの影響がかなり出てくるかと思う。
- ・関連分野就職率はアップ、資格取得は昨年並み、退学率は目標におさまっているということで、学校運営にあたり、大変な努力が感じられ、それが結果に繋がっている。但し今後はコロナウイルスの影響により、従来の方法による運営を大きく変革させなければ今までの教育成果は得られないかも知れない。

学校関係者評価平均

4

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ・常設の進路指導室を設置し、学生の就職相談には常時対応している。専任職員を配置し、進路活動支援・求人開拓を行っている。校内企業ガイダンスを年1回実施し、姉妹校の開催するガイダンスについても教員を通して伝達している。

- ・学生面談は入学生に対しては、入学後早期に面談を実施している。スクールカウンセラーは、毎週火曜に来校し学生からのカウンセリング希望に対応している。また、スクールカウンセラーからの情報提供紙として『メンタルヘルス』を毎月発行し、学生及び教職員に配布している。
- ・学生の経済的側面に対する支援として日本学生支援機構の奨学金制度・国の教育ローン等の案内を学生・保護者に対して紹介している。学校法人で取組んでいる学費サポートプランについても書面及び口頭で説明している。
- ・保護者とは、後援会総会や各種イベント開催の案内を通して学校の状況を知らせている。また、積極的にマス媒体に露出することにより、保護者に学校の活動状況を告知している。
- ・卒業生に対しては卒業後の就職活動支援や、アルバイト募集への協力、情報の問合せへの対応等を行っている。
- ・前年度まで就職活動の取り組みとして、グラフィックデザイン科、プロダクトデザイン科、インテリアデザイン科でポートフォリオセッションを行なっていたが、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。ただ、ポートフォリオセッションに向けてまとめてきたため、就職活動には活かすことができている。
- ・校内球技大会、校内ボウリング大会、ハロウィンなどの課外活動を実施している。また、クラブ活動に対しても支援を行っている。

- 今後の改善方策
- ・前項にもあるが、SNS を活用した卒業生とのコミュニケーションを利用し、相互の協力体制をシームレスになるよう工夫する。
 - ・学生の健康管理に対する体制をより充実したものとする。
 - ・教育費負担軽減制度が令和元年度よりスタートする。登録に向けて申請手続き準備を行う。

- 学校関係者 評価コメント
- ・新型コロナの影響で自宅時間が増えたことによるストレスや新入生（G科はまだ不登校との事）の不安など、今年は増える一方だと思う。退学者が出ないようなサポート体制が重要。保護者との連絡もすぐにできると良い。
 - ・情報、報道関係、課外活動等、支援は適切であると思われる。
 - ・新型コロナ関連のメンタル、経済的な支援が今後より重要になると思われる。
 - ・反社会的活動（薬物・アルバイト）に対する啓発がより必要となってくると感じる。
 - ・社会のIT化の進歩と移り変わりには驚くことが多く、今年はコロナ禍の中で否応なしテレワークやオンライン授業が進んだ。メリット、デメリット等もあるだろうが、学生はSNSの活用には抵抗もないと思うが対面（テレワーク可）でもコミュニケーションや指導が必要になってくるのではないかと思う。
 - ・学校独自の対応もさることながら、法人の後ろ盾が学生支援に良い影響を与えていると感じる。
 - ・学生とのコミュニケーションについて、今後は対面・リモートの中で新たなルールや手段が必要である。
 - ・学生の相談・面談に力を入れており十分な支援体制が構築されている。また、レクリエーション開催やSNSや健康面、経済面での今後の取り組みからも学生に寄り添った御校の姿勢が感じられる。

学校関係者評価平均

4

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4

5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
学校自己評価 平均		4
<u>成果と課題</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が校内で快適に生活できるようトイレの改修工事を実施した。工事箇所は5階の女子トイレ、男子トイレ、ユニバーサルトイレ、並びに3階男子トイレ、女子トイレ。3階トイレについては現在の学生男女比（男子対女子の割合、3：7）を考慮し男子トイレを廃止して女子トイレに変更した。改修するにあたり、快適性を高めるため、水回り設備をはじめとして、床、壁、天井、パーテーションに至るすべてを新しくしている。なお3階は中央の壁を取り払いパウダーコーナーを新設、一部の蛇口からはお湯も出せる仕様としたため、利便性と快適性が向上し学生、来校者、職員にも好評となっている。 ・ 学校的美観を整え、防水機能の維持を図るため、校舎東面を全面的に改修した。 ・ 学生ロッカーを全面的に交換し、快適に使えるようにした。 ・ 教室内で劣化の進んだ壁の張替えを行い館内の美化を推進した。 ・ すべての教室は学生に自由開放し、自習が可能な状態となっている。放課後も、月・水・金は19時、火・木は20時まで、土曜日は午前中を開放している。 ・ 定期的な防災訓練の実施、保存食の備蓄など防災に対する体制は整備されている。また車椅子利用学生を救助できる腰掛式担架を5Fに設置している。 ・ ガス缶を使用して発電する発電機2台、蓄電器2台を常設しており停電時のバックアップ電源を確保している。 ・ 保健室を備えており、常備薬も定期的に補充されている。 ・ ミシン、製図盤、レーザー加工機などの機器は年に1～2回専門業者がメンテナンスを行い必要な修繕を実施している。 ・ 昼食時に発生するゴミに対して、エレベータ前に昼食時専用のごみ箱を設置している。 		
<u>今後の改善方策</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者の増加に伴い、今後の就職先を広げておく必要がある。従来からの就職先とのパイプを確保しつつ、インターンシップ先の新規開拓も引き続き行っていく。 ・ いざという時に教職員が発電機を実際に使えるよう定期的な訓練を実施する。 ・ 築20数年が経ち、各部で経年劣化が進んでいる。常に学校を点検し必要に応じて対処する。 		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3階のトイレは実際とてもキレイになっていた。学校の外観や内部のメンテナンスは学校選びの一つの基準になると思うので、常に整理されていることが望ましい。 ・ 校内の施設は最新機器を積極的に導入しているが、学生生活を快適に過ごすため設備面の充実は非常に大切。 ・ 今後は感染症対策も「教育環境」として取り組みを外部に発信していく必要があると考える。 ・ 女子の比率が高いが逆に男子学生に負担がかからない様な配慮も必要かと思う。 ・ 経営環境が厳しい中、ハード面の改善がこまめになされ教育、居住環境が快適になったようすが伺える。 ・ 建物や設備の劣化はやむを得ないので、上手に工夫・対応していくことが大切。 ・ 生活様式も変化していくのでこれにも対応していく必要がある。LGBTなどジェンダーフリーへの対応も今後は必要になってくる。 ・ 報告によると、学生の視点で実践されており、万全な教育環境が整備されている。 		

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ・学生募集については教職員一丸となって取り組んでおり、広報資料・募集要項の内容等は適宜更新し、適切に記載されている。
- ・学校説明会は4月から12月まで毎月開催し合計11回行った、オープンキャンパス(体験入学)は3月から9月まで11回(新型コロナウイルスの影響で2回はWeb上で実施)開催した。内容はその都度学科内で検討し、集客に努めた。オープンキャンパス参加者からの出願率は前年並みとなった。
- ・オープンキャンパスの開催方法にも工夫をし、前年度の申込者実績を元にデザイン系学科とファッション系学科を二日に分けて実施し、高校生への対応がしっかりできるよう配慮した。
- ・学科ごと入学者のバラつきが発生したが、定員190名に対して233名の学生が集まり、全体としては定員を超える入学生数を確保することができた。
- ・学内でのTwitter等のSNSの活用が浸透し、高校生への広がりを見せた。募集活動に効果的に機能した。

今後の改善方策

- ・定員未達の学科を重点フォロー学科とし、学科の魅力と募集戦略を再考し、安定した定員確保を目指す。
- ・18歳人口が減少する中、反応者の獲得につながる積極的なアクションを起こしていく。
- ・一度接触した反応者をより来校や出願に結び付ける適切なフォローを心掛ける。
- ・本校がかなり研究されてきているため、他校との違い(本校の特色、強み)を明確に打ち出していく。

学校関係者 評価コメント

- ・オンライン授業が全国的に増えてきた際には、県外の学校に学生が流れやすくなると思うのでシズデが他と差別化できることをキッチリと明確にする。静岡という土地で地元の学校に通う事のメリットなど、募集するに当り今までとは違った目線でのアピールも大切だと思う。
- ・入学生は増えており、その成果をみても適正であると思われる。
- ・学生本人だけでなく保護者に対する働きかけも必要だと思う。
- ・就職実績や就学支援を広報することで保護者の不安を取り除くことも学生募集に繋がると思う。
- ・年度末のコロナ禍の影響は今後長期にわたっていろいろな分野で今までの経験値が変わるかもと懸念されるが、英知を集めて乗り越えて頂きたい。
- ・令和元年度については対応と結果が上手に結びついた。今後は対応が難しくなっていくことが予想されるので、ニーズを掘り起こす新たな対応が必要となるのではないかと。
- ・近年学生数を確保することは大変難しいと思われるが、オープンキャンパスでの集客や定員を超える入学生など確実に成果に繋げている。

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	3
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-8	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-9	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-10	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-11	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-12	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-13	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-14	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-15	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-16	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-17	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-18	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-19	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-20	自己評価結果を公開しているか	4

学校自己評価 平均

3.95

成果と課題

- ・学校法人全体を統括する理事会・評議員会は年3回、5月・9月・2月に定期的実施され、議事録は適切に作成され、管理されている。
- ・就業規則などの諸規定は整備されており、一部抜粋が規定集として全職員に配布され、またすべての規定集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。
- ・組織間の連携は、校長会及び4つの部会（進路、企画、教育、広報）と中期計画策定委員会を中心に十分な連絡会が持たれている。事務局機能として専門学校事業室が機能し、全体の連携をさらに円滑にしている。
- ・防災計画は年度ごと見直しを行い防災マニュアルに反映し、非常時の危機管理対策について周知徹底している。
- ・AEDは学校1F事務室に配置されており、全教員がAED講習を受講しAED操作の訓練を行っている。
- ・個人情報を使用目的等を明示したうえで収集、利用、廃棄している。
- ・セクシャルハラスメントにのみではなく広くハラスメント全般に対するようハラスメント委員会を設け、委員名や連絡方法、またハラスメントへの対応等を明記した文書を校舎内廊下に掲示している。校長室前には施錠した投書箱を設置している。
- ・学園の財務情報については、ホームページ上に公開されており常時閲覧可能である。財務分析比率は適切な数値となっている。

<u>今後の改善方策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の基幹システム（教務、広報、就職）の連携を進めて業務の効率化を図る。 ・新型コロナウイルス感染症に備えた危機管理の在り方を構築する。 ・AEDについては定期的な講習を行い、非常事態に備える。 ・学校の安全性を高めるために校内の防犯カメラに加え、学校周辺を監視できる防犯カメラの設置を検討する。 	
<u>学校関係者 評価コメント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナだけでなくそれ以上の危機に面した場合の想定はできる限りしておくべき。「想定外」の事が起きた時のすばやい判断が大切。 ・明確な目標、事業計画が示された運営であり、財務公開についても問題ないと思われる。 ・IT活用によるさらなる省力化、効率化により教職員の負担を減らし、QOLの向上に努めていただきたい。 ・安定した運営をしているようなので申し分ない。 ・制度やルールがあっても運営をするのは「人」です。職員の意識向上が安定した組織運営につながると思う。 ・情報公開、リスクマネジメント、コンプライアンス、ハラスメント等、現代社会の複雑な問題に積極的に取り組み十分な対応がなされている。 	
学校関係者評価平均	4

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
8-4	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校自己評価 平均		4
<u>成果と課題</u> <ul style="list-style-type: none"> ・『伝馬町イベント』、『ガールズウォーク』、『店舗ディスプレイ』、『クリスマスフェスタ』等地域のイベントに積極的に参加し、地域貢献を図っている。また、中学校からの依頼によるキャリア教育、高等学校から依頼によるデザイン関連体験授業等にも対応している。 ・留学生の受入体制については、留学生担当を設け対応しているが、二人体制によって留学生への対応を手厚くした。また、入国管理局への報告事項も適正に行われ、入国管理局より適正校であることの文書が届いている。 ・ボランティア等の依頼については、一斉メールによる募集案内を行ったり、校内掲示を行ったりして積極的に参加を募っている。『大道芸ワールドカップ』には多くの学生が参加している。 		
<u>今後の改善方策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動へ積極的に参加する学生を支援する体制を学内に整える。 ・留学生は日本の慣習が分からないことも多いため、日常生活に関するサポート体制を充実させる。 		
<u>学校関係者 評価コメント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり、海外の方に対する見方や対応にも気を付けていく必要がある。 <p>企業、イベントでの交流の仕方も変わってくると思うが、学生ならではの機会は減らさないようにできたらと思う。</p>		

- ・国内外による活動の貢献度をみても活発であると思われる。
- ・長年に渡り、伝馬町プロジェクトにご協力いただき感謝しております。
- ・海外のデザイン系の学校との交流も検討してみても如何か。他校との差別化に有効かも。理工科大学との連携を利用できると良い。
- ・静岡市の国際交流協会との情報交換も活用してみても如何か。
- ・企業も教育も社会に必要とされて初めて存在意義がある。学校もSDGsの宣言、浸透、普及にも十分力を入れていると思う。
- ・あらゆる団体との共同、あらゆるイベントへの参画ということで、教育方針が学生に浸透し、十分な成果が得られている。
- ・様々な企業とのコラボ、イベント参加は授業と合わせて地域との関係づくりをしやすい環境となっていて素晴らしいと思う。今後も地域に必要な存在として活躍を期待している。

学校関係者評価平均

4

令和元年度（平成 31 年度）学校関係者評価委員会 議事録

日 時：令和 2 年 6 月 15 日（月）14：00～16：00

場 所：静岡デザイン専門学校 4F 402 教室

議 題：令和元年度（平成 31 年度）学校関係者評価に関して

進行・記録：保科

出席者：卒業生 青島 千枝美 様（柴田千枝美事務所 代表）
保護者 片瀬 浩之 様（静岡デザイン専門学校後援会会長）
近隣住民 塚本 雅英 様（伝馬町発展会 会長）
関係業界 小林 廣夫 様（㈱フローラ 4 5 小林岩夫生花店 代表取締役）
関係業界 松木 徳夫 様（㈱加減乗除 代表取締役）
関係業界 水島 圭吾様（㈱大丸松坂屋百貨店 業務推進部マネージャー）
校 長 久保田 香里
教務課長 保科 康浩
教務課長 大場 厚始
総務課長 守谷 洋子

1. 学校長挨拶

2. 令和元年度（平成 31 年度）静岡デザイン専門学校自己評価に関する趣旨説明（保科）

<以下資料を元に説明>

- ・学校関係者評価委員会 委員名簿
- ・学校自己評価報告書
- ・学校関係者評価会議 資料 1 実績報告
- ・学校関係者評価会議 資料 2 実績報告
- ・委員用評価報告書への記入について

3. 令和元年度（平成 31 年度）の本校の実績について、久保田校長より説明

4. 評価項目（1）から（8）までの達成及び取り組み状況に関して説明（保科）

（1）教育理念・目標

項目 1-1 から 1-5 までの成果と課題、今後の改善方策について説明

自己評価 4 を報告

<委員からの評価・コメント>

- ・社会人基礎力など、オンライン授業が増えたことで弱くなる生徒、強くなる生徒に分かれると思うので見極めて指導していくことが必要だと感じた。
- ・学生のニーズによる様々な科があり目標が定めやすいと思える。
- ・専門スキルとともに社会人としてのマナー、対人折衝能力の向上にもより力を入れていただきたい。
- ・何をするために入学したのか、修業期間で何を身につけたいのかを自覚してもらう為に、繰り返し理念に沿った指導がされていると感じる。
- ・目の前に見えるカタチで掲出されているので学生たちは意識しやすくなっているのではないかと感じる。但し文言は概念的なため学生たちはどの程度理解しているか。

- ・教育理念、教育目標についてはあらゆるツールが用いられ、学生の目に触れるよう努力が見受けられる。その結果、一年間の学生の活躍として表れていると思われる。

(2) 教育活動

項目 2-1 から 2-12 までの成果と課題、今後の改善方策について説明

自己評価 4 を報告

<委員からの評価・コメント>

- ・教育課程編成委員の入れ替えは大切。企業の上の人の意見も大切ですが、卒業生（先輩）が実際に何を学んでおけばよかった…と思っているか、身近な意見も取り入れて欲しいと思う。時代に合わせた改善策が必要。
- ・コロナによる影響にもリモート等の対応がされており活動も積極的であり、新しいチャレンジも感じられる。
- ・専門スキルとともに社会人としてのマナー、対人折衝能力の向上にもより力を入れていただきたい。（過去の学生との接触をとおして感じた点です。）
- ・各学科とも色々なイベントやコンテスト、社会貢献活動に参加、チャレンジされておりなおかつ優秀な成績を修めている。学校関係者のご指導のもと、生徒も意欲的に取り組んでいることがよく解る。
- ・優良なカリキュラムが組み立てられていることの結果がコンテストの入賞実績に現れている。トップレベルは問題ないとして全体のボトムアップは必要。
- ・シラバスが広く公開されており、その計画に沿って企業や地域との共同研究が活発に行われており、多くの成果に繋がっている。
- ・数々のコンテストに受賞・入賞が御行のチャレンジ精神を物語っている。

(3) 教育成果

項目 3-1 から 3-4 までの成果と課題、今後の改善方策について説明

自己評価 4 を報告

<委員からの評価・コメント>

- ・インターンシップでは企業側も生徒のスキル以外に人間性やコミュニケーション力も見ることができて活用の利点が多いと思う。就職率も学校を選ぶ際に必要だが、離職率が気になるところ。2年、3年学んだことを長く続けてもらいたいと思う。
- ・専門的な職種の斡旋がなされ向上されていると思われる。
- ・退学率の低下は教育成果として高く評価できる。また退学者へのフォローも年一回程度（3年間程）あっても良いのかと思う。
- ・在籍者数、退学・休学者数も昨年とほぼおなじではあるが、少子化、社会情勢を考慮すれば指導面での努力が評価される。但し、就職に関してはコロナ禍の中で苦戦を強いられると危惧している。
- ・社会が少しずつ変化する中、学生たちの就職に対する意識が多様化しているが、学校として上手に対応できていると思う。今後はますます多様化し、社会的にもコロナの影響がかなり出てくるかと思う。
- ・関連分野就職率はアップ、資格取得は昨年並み、退学率は目標におさまっているというところで、学校運営にあたり、大変な努力が感じられ、それが結果に繋がっている。但し今後はコロナウイルスの影響により、従来の方法による運営を大きく変革させな

ければ今までの教育成果は得られないかも知れない。

(4) 学生支援

項目 4-1 から 4-9 までの成果と課題、今後の改善方策について説明

自己評価 4 を報告

<委員からの評価・コメント>

- ・新型コロナの影響で自宅時間が増えたことによるストレスや新入生（G 科はまだ不登校との事）の不安など、今年は増える一方だと思う。退学者が出ないようなサポート体制が重要。保護者との連絡もすぐにできると良い。
- ・情報、報道関係、課外活動等、支援は適切であると思われる。
- ・新型コロナ関連のメンタル、経済的な支援が今後より重要になると思われる。
- ・反社会的活動（薬物・アルバイト）に対する啓発がより必要となってくると感じる。
- ・社会の I T 化の進歩と移り変わりには驚くことが多く、今年はコロナ禍の中で否応なしテレワークやオンライン授業が進んだ。メリット、デメリット等もあるだろうが、学生は SNS の活用には抵抗もないと思うが対面（テレワーク可）でもコミュニケーションや指導が必要になってくるのではないかと思う。
- ・学校独自の対応もさることながら、法人の後ろ盾が学生支援に良い影響を与えていると感じる。
- ・学生とのコミュニケーションについて、今後は対面・リモートの中で新たなルールや手段が必要である。
- ・学生の相談・面談に力を入れており十分な支援体制が構築されている。また、レクリエーション開催や SNS や健康面、経済面での今後の取組みからも学生に寄り添った御校の姿勢が感じられる。

(5) 教育環境

項目 5-1 から 5-6 までの成果と課題、今後の改善方策について説明

自己評価 4 を報告

<委員からの評価・コメント>

- ・3 階のトイレは実際とてもキレイになっていた。学校の外観や内部のメンテナンスは学校選びの一つの基準になると思うので、常に整理されていることが望ましい。
- ・校内の施設は最新機器を積極的に導入しているが、学生生活を快適に過ごすため設備面の充実は非常に大切。
- ・今後は感染症対策も「教育環境」として取り組みを外部に発信していく必要があると考える。
- ・女子の比率が高いが逆に男子学生に負担がかからない様な配慮も必要かと思う。
- ・経営環境が厳しい中、ハード面の改善がこまめになされ教育、居住環境が快適になったようすが伺える。
- ・建物や設備の劣化はやむを得ないので、上手に工夫・対応していくことが大切。
- ・生活様式も変化していくのでこれにも対応していく必要がある。LGBT などジェンダーフリーへの対応も今後は必要になってくる。
- ・報告によると、学生の視点で実践されており、万全な教育環境が整備されている。

(6) 学生の募集と受け入れ

項目 6-1 から 6-5 までの成果と課題、今後の改善方策について説明

自己評価 4 を報告

<委員からの評価・コメント>

- ・オンライン授業が全国的に増えてきた際には、県外の学校に学生が流れやすくなると思うのでシズデが他と差別化できることをキッチリと明確にする。静岡という土地で地元の学校に通う事のメリットなど、募集するに当り今までとは違った目線でのアピールも大切だと思う。
- ・入学生は増えており、その成果をみても適正であると思われる。
- ・学生本人だけでなく保護者に対する働きかけも必要だと思う。
- ・就職実績や就学支援を広報することで保護者の不安を取り除くことも学生募集に繋がると思う。
- ・年度末のコロナ禍の影響は今後長期にわたっていろいろな分野で今までの経験値が変わるかもと懸念されるが、英知を集めて乗り越えて頂きたい。
- ・令和元年度については対応と結果が上手に結びついた。今後は対応が難しくなっていくことが予想されるので、ニーズを掘り起こす新たな対応が必要となるのではないかな。
- ・近年学生数を確保することは大変難しいと思われるが、オープンキャンパスでの集客や定員を超える入学生など確実に成果に繋がっている。

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

項目 7-1 から 7-20 までの成果と課題、今後の改善方策について説明

自己評価 3.95 を報告

<委員からの評価・コメント>

- ・新型コロナだけではなくそれ以上の危機に面した場合の想定はできる限りしておくべき。「想定外」の事が起きた時のすばやい判断が大切。
- ・明確な目標、事業計画が示された運営であり、財務公開についても問題ないと思う。
- ・IT活用によるさらなる省力化、効率化により教職員の負担を減らし、QOLの向上に努めていただきたい。
- ・安定した運営をしているようなので申し分ない。
- ・制度やルールがあっても運営をするのは「人」です。職員の意識向上が安定した組織運営につながると思う。
- ・情報公開、リスクマネジメント、コンプライアンス、ハラスメント等、現代社会の複雑な問題に積極的に取り組み十分な対応がなされている。

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

項目 8-1 から 8-4 までの成果と課題、今後の改善方策について説明

自己評価 4 を報告

<委員からの評価・コメント>

- ・国内外による活動の貢献度をみても活発であると思われる。
- ・長年に渡り、伝馬町プロジェクトにご協力いただき感謝しております。
- ・海外のデザイン系の学校との交流も検討してみては如何か。他校との差別化に有効。理工科大学との連携を利用できると良い。

- ・静岡市の国際交流協会との情報交換も活用してみても如何か。
- ・企業も教育も社会に必要とされて初めて存在意義がある。学校もSDGsの宣言、浸透、普及にも十分力を入れていると思う。
- ・あらゆる団体との共同、あらゆるイベントへの参画ということで、教育方針が学生に浸透し、十分な成果が得られている。
- ・様々な企業とのコラボ、イベント参加は授業と合わせて地域との関係づくりをしやすい環境となっていて素晴らしいと思う。今後も地域に必要な存在として活躍を期待している。

5. その他、ご意見など

- ・今まではコロナ対策、これからはコロナウイルスとともに進める教育を考えていく事が大切だと思います。
- ・当たり前の事ですが、事前に資料をいただいて予習をして来なければ各項目の意見もなかなかまとまりません。事前コメントを準備できる時間を今後も取ってください。
- ・弊社（松坂屋静岡店）も同様であるが、予想外の新型コロナウイルスによる甚大な被害、この状況を打開するには従来積み上げてきた方法を一度リセットし、ゼロから再構築しなければいけないかも知れない。それを考え、実践していくのはまさしく人であり、御校では教育関係者や数多くの学生である。今後もやはり人材の育成が重要である。共に頑張りましょう。

6. 閉会

以上